月などいふがごとし、後代の歌詞に出たれど、遂に其月の名となりし事のごとく、古を去事久しき世の人のいひし所の、つゐに其名となりて、古にいひし所のごときは云る人もなくなるにいたれり、五月をサツキといひ、又世の人今もなを、つゝしむべき月也などもいふ也、此月の事は、舊事記に見へし所なれば、古の時の名也けむとも云らるゝ也、卯月、長月、陽月、歲終などいふがごとき、漢にもふるくいひ傳へにし所なれば、此等のごときは、我國に漢字傳へ得し後の人のいひし所なるにや、またたま〳〵其名の相同じかりしにや、すべて其詳なる事を云らず、

〔古事記傳三十〕凡て月々の名ども、昔より說どもあれど皆わろし、其中にたゞ三月を彌生なりと云るのみはよし、又師の考へに、七月は穗含月、八月は穗發月、九月は稻刈月なりと云れたるなどは、さもあるべし、其餘はいかゞあらむ、又九月は稻熟月にてもあらむか、但賀を濁るは刈にても、熟にても、いかゞなるは、音便にて濁るか、はた異意か決めがたし、此外にも己も考出て、さもあらむと思ふ彼此はあれど、十二月みながらは未考得ざれば、今云ず、なほよく考へて云べし、

〔伊呂波字類抄元奐天〕正月律中太簇

〔續日本紀二十九稱德〕神護景雲三年正月戊戌授無位牟郡岐王從五位下、

〔續日本紀九稱德〕寶龜二年十月紀、天應元年五月

〔牟都岐王紀、延曆十年七月紀、並作正月王、〕

〔春秋左傳注疏二〕經、元年春王正月、注、隱公之始年、周王之正月也、凡人君卽位、欲其體元以居正、故不言一年一月也、

〔八雲御抄三上時節〕正月　むつき

〔下學集上時節〕大簇正月　履端正月　履一切之事、故曰履端也、　肇歲正月也、肇始也、甫年正月也、甫始也、睦月正月也、睦或作睦、新春親類相依娛樂遊宴、故云睦月也、獻歲正月也、獻與獻同、阪月正月也、始和正月也、解凍正月也、

〔運步色葉集志〕正月